

おわりに

新世紀を迎えて、流動的な現在のわが国の社会的背景のもとで、様々な政策転換や構造改革が進行している。知的活動により社会の重要な役割を担ってきた大学への期待は、知の再構築が求められる時代になって、一層強くなってきている。

九州大学の国際社会、地域社会への貢献、学術研究拠点としての発展が、経済界、地元市民に期待されており、国際化の進展は、アジアの拠点大学としての九州大学の役割をますます重要なものにしていく。国立大学法人として、新たな出発をすることになる九州大学は、情報化、国際化等に対応した様々な改革の成果を新キャンパスで実現する準備を整えつつある。

新キャンパス計画専門委員会は、これまで10年以上にわたり検討されてきた学内の様々な検討結果および「九州大学・新キャンパスマスタープラン 2001」を前提として、新キャンパスの顔となるセンター・ゾーンの地区基本設計をとりまとめた。検討にあたり、イースト・センターゾーンWG及びタウン・オン・キャンパスWGの合同検討チームおよび黒川紀章・日本設計共同体が主力となった。

設計コンサルタントである黒川紀章・日本設計共同体は、著名な建築家と組織事務所による建築・都市デザインの職能グループである。合同検討チームでとりまとめた多岐にわたる学内の複雑なプログラムを理解し、優れたデザインをもって、学内の合同検討チーム、同コアチーム、施設部、新キャンパス計画推進室等の協力のもと、「大学の顔」となるセンター地区の課題に対する解を導きだした。設計共同体の精力的な検討に謝意を表する次第である。

今後は、センター地区基本設計における成果をもとに更なる検討を行い、「広く社会に開かれたキャンパス」の実現をはかることになる。関係各位の絶えぬご支援を願ってやまない。